

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670101973
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム よしの村
訪問調査日	平成20年8月18日
評価確定日	平成20年9月17日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670101973
法人名	グループホーム よしの村
事業所名	医療法人 明輝会
所在地	鹿児島市吉野町3822-1 (電話) 099-294-0501
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年8月18日

## 【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年10月11日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	27 人 常勤 16人, 非常勤 11人, 常勤換算 22.6人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃	27,900~31,500 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	有 ( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	26 名	男性 1 名	女性 25 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	13 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	88 歳	最低	75 歳
		最高	105 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村川上内科
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、鹿児島市北部高台の住宅地に建てられている。周囲は住宅とともに木々の緑や畑が点在しており、入居者は自然の美しさを感じながらゆったりと過ごすことができる。近隣には大型のスーパーや金融機関があり、入居者自ら買い物に出かけるなど日々の生活を楽しんでいる。母体医療機関を中心に、往診や訪問看護など医療面での支援に加え、老人保健施設等の関連施設とも連携しながら多機能的な支援を行っており、入居者やご家族にとって大いに安心できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の定期的な開催、重度化や終末期に向けた方針の共有、災害対策など、それぞれ職員間で話し合い、改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価及び外部評価を業務の振り返りや改善の機会と捉え、ユニットごとに主任を中心として取り組んでいる。一連の評価を、質の確保・向上に向けた取り組みに活かすためにも、自己評価については、実施している内容・実施していない内容・今後取り組んでいきたい内容など、具体的に検討することが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ご家族をはじめ、地域代表や行政の担当者が参加する運営推進会議を定期的に開催し、入居者やサービスの実際、評価への取り組み、災害発生時の地域の協力依頼について報告や話し合いを行いサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回の家族会の他、ご家族の面会時にそれぞれの希望や要望、不満等を表しやすい雰囲気づくりに努めている。また、寄せられた意見や要望については、主任を中心に職員間で話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、職員を中心に清掃活動等の地域活動に参加している。入居者は散歩や買い物の途中で地域の人々と挨拶を交わすなど、日常的な交流を図っている。また、近隣の保育園と定期的な交流会を開催したり、中学校の職場体験学習を受入れるなど、地域との交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念において地域とのつながりを謳っている。		事業所としても、地域密着型サービスとしての独自の理念について検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を書いたプリントを職員に配布しており、朝の申し送りの際、全員で唱和している。中でも特に笑顔について全員で取り組んでおり、明るいホームを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、職員を中心に清掃活動等の地域活動に参加している。入居者は散歩や買い物の中で地域の人々と挨拶を交わすなど、日常的な交流を図っている。また、近隣の保育園と定期的な交流会を開催したり、中学校の職場体験学習を受入れるなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を業務の振り返りや改善の機会と捉え、ユニットごとに主任を中心として取り組んでいる。		一連の評価を、質の確保・向上に向けた取り組みに活かすためにも、自己評価については、実施している内容・実施していない内容・今後取り組んでいきたい内容など、具体的に検討することが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族をはじめ、地域代表や行政の担当者が参加する運営推進会議を定期的開催し、入居者やサービスの実際、評価への取り組み、災害発生時の地域の協力依頼について報告や話し合いを行いサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の定期的な受入れや保護課との連携など、運営推進会議以外にも行政と交流しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「よしの村だより」を発行しており、その中で個別に入居者の暮らしぶりや新しいスタッフの紹介など定期的に行うとともに、必要に応じて、随時ご家族の訪問の際や電話等で報告している。金銭管理状況についても適宜写しを送付するなどしているが、確認のサインや印鑑などユニット間でバラツキがある。		後日のトラブル回避のためにも、金銭管理におけるご家族の確認方法について再度検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の他、ご家族の面会時にそれぞれの希望や要望、不満等を表しやすい雰囲気づくりに努めている。また、寄せられた意見や要望については、主任を中心に職員間で話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響に配慮しつつ、職場の活性化や介護技術の向上のため、ユニット間の異動を含む人事異動の必要性を職員に周知徹底して必要最低限の異動を実施している。急な異動とならないように1ヶ月前には発令するなど、入居者のダメージを防ぐ配慮も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の全体研修への参加やユニット単位の勉強会(毎月)、全ユニット合同の勉強会(毎月)など定期的開催している。また、外部研修への参加等、それぞれの経験や知識に応じて参加を検討している。また、働きながらの資格取得など、職員の資質向上に向けた取り組みへのサポートも積極的に行っている。		年間研修計画および、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の他グループホームとの交流が多いが、その他、地域包括支援センターを中心とした地区の同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望される本人およびご家族に事前にホームを見学していただき、安心、納得した上で入居していただくように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴を念頭に置き、それぞれに応じた会話や対応に心がけている。一緒に買い物に出かけたり、料理方法や昔話などを入居者から教わるなど、お互いに支えあいながら日々過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いやホームでの暮らし方の希望など、意向を把握するよう傾聴に努めている。また、本人からの把握が困難な場合はアセスメントにより問題を把握し、職員間で本人本位のケアについて話し合い対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者による毎月のモニタリングと3ヵ月毎の評価をベースに、カンファレンスにおいて、入居者本人やそのご家族、職員や訪問看護師等と話し合い、様々な意見を出し合い介護計画を作成している		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者による毎月のモニタリングと3ヵ月毎の評価を考慮しながら、介護計画の期間(基本的には6ヶ月)に応じて見直しを行うとともに、身体状況の変化など必要に応じて随時、必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かした支援の他、法人内の他事業所と連携、協力しながら柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医による、適切な医療が受けられるように支援している。また、大半の入居者のかかりつけ医である協力医療機関により、訪問診療(月4回)や訪問看護(週1回)が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての指針を定めており、ご家族に説明している。また、病状の変化に応じて、ご家族の意向を確認しながらカンファレンスで話し合い、職員間で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねることがないよう、常に言葉かけや対応に配慮している。訪問診療については、それぞれの居室で行っている。記録類は事務所で保管するなど、個人情報については適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムをつくるために一応の流れはあるが、入居者の体調やそれぞれのペースを大切にしており、本人の希望に沿うように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの状態に応じて、野菜の下ごしらえや配膳、下膳、台拭きなど、ともに協力しながら行っている。職員も同じテーブルを囲んで必要な支援を行いつつ、一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間など、それぞれの方の希望を考慮して支援している。また、あまり入浴を好きでない入居者に対しても、声かけをしながら気分よく入っていただけるように工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみごとなど、生活歴を参考にして支援するように心がけている。また、定期的なドライブや家事への参加協力、散歩やレクリエーションを通じて気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごすことなく、それぞれの希望に応じて、散歩や買い物、ドライブなど、なるべく多く戸外に出かけられるように適宜支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、職員間で声をかけ合い、入居者の所在を把握するなど工夫している。また、運営推進会議や日頃の地域との交流を通じてホームを理解していただくとともに、入居者を知っていただくことで、不測の事態にも対応できるように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定も含め、定期的に訓練を実施している。運営推進会議においては、他県で発生したグループホーム火災の新聞記事等を紹介するとともに、実施した訓練の流れや緊急連絡体制を報告して、地域の人々の協力についても働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量と水分量を記録し、一日を通じて確保できるように職員間で情報を共有しながら支援している。また、定期的に栄養士の指導を受け、栄養バランスに配慮した献立に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に花や入居者の作品を飾るなど、季節を感じさせる工夫を行っている。天気の良い日は庭で過ごすことができるように、テーブルや椅子を配置するなどして配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドのみホームで提供しているが、その他についてはご家族と相談し、使い慣れたものや好みのものを持ってきていただいている。部屋の模様替えなども本人やご家族と話し合いながら対応するなど、居心地よく過ごせるように工夫している。		